

報 会

道 南

平成17年
新年号

四十五周年を迎える道南会

田 沼 修 二

戦前から函館や道南地方出身で東京で活躍されている方々が、時どき集まって郷里の思い出を語り合う「在京函館会」があつたという。しかしこの集まりも戦争の中で何時しか立消えになった。

戦後の復興が本格化し始めた昭和三十五年の七月に、故阿部良平氏の奔走で今の「道南会」が発足する。渡辺紳一郎会長（タレント・話の泉など）をはじめ、前田梅松（テレビ経済解説者）河村織右衛門（製綿業）の両副会長の三人が中心となり、幹事には、亀井勝一郎（評論家）高橋掬太郎（作詞家）高峰秀子（女優）田辺三重松（洋画家）など郷土出身の名士が名を挙げている。

道南会の第一回の新年懇親会は設立総会を兼ねて昭和二十六年一月二十四日に数寄屋橋のニュー東京で開かれた。参加者の数は記録に残っていないが、前年夏の設立を決めた集まりは三十名とあるから五十名位かと推定される。そして四十年一月の新春総会の出席者は早くも百二

十名と激増している。

つまり道南会は順調に発展を続け、次の世代のリーダーとして和田貞一（王子製紙）山下静一（経済同友会）金子鳴亭（書家）梁川剛一（彫刻家）の諸氏、そして幹事役の室谷邦雄、能味寿哉氏などが舵をとり、中村隆俊、早坂茂三、二上達也の皆さんが会員相互の交友関係に貢献されてきたことなどが会の発展の大きな原因となっており、加えて道南の名にふさわしく、弦巻鋼男松前会長や相馬正樹上磯会長も交流の輪を広げるのに努力されてきたことも貢献している。

ところで戦前はもとより戦後三十五年当時は、上京して定着する者も少なく、帰省のままならぬ交通事情の中で、同郷の者が集まって想い出話を華を咲かせ、取り寄せた郷土の味を楽しむのが何よりの楽しみであった。これはどこの「ふるさと会」にも共通するもので郷愁からの出発といつてもよいかもしいない。

しかし昭和五十年代に入ると高度経済

成長政策が現実のものとして労働力の都市集中を進め、交通体系が次第に陸から空に移り、人々は気軽に帰省する事が可能となった。当然郷愁を共にするだけでは物足りなくなってくる。そこで道南会では郷愁の共有だけに止まらず、首都圏に住む同郷者の親睦を深めるための行事季節毎のお花見、見学会やハイキングなどの行事を企画実施してきた。幸い多数の会員の支持を得てほぼ毎月一回程度実施している。さらに郷土の情報を入手したり、会員相互の情報を交換するために機関誌を発行し、年二回定期的に「道南」を発行してきている。郷愁の共有だけの時代から、幅広い交流へと変身しているのである。

今年、道南会発足四十五周年を迎えるに当たって会の歴史を顧みながら、今後の会の在り方について会員全体で考えて見る必要があるのではないかと思う。

また親睦を深め郷土との交流を図る郷土訪問旅行や、来年の十八年新春総会を記念総会とし、記念誌の発行もあわせて企画することにも必要であろう。此等のほかに何か記念になる企画について会員の皆さんのご提案を待つて、節目の年を飾りたいと思つている。

最後に四十五年の会の歴史の中で、創立当時は四十代の働き盛り

であつた会員が次第に高齢となり、八十代を超えて健康を損ねたりして会に顔を出されなくなつてきていることは、誠に残念ではあるが止むを得ない事であろう。すでに鬼籍に入られた先輩を含め、改めて多年のご尽力に感謝申し上げます。しかしその半面、ここ二、三年の新入会員の数は見るべきものがあり、道南会の益々の発展を裏付けるものと言えよう。

いよいよ今年から道南会の第三世代の活躍が期待されるのである。



昭和 35 年 7 月 創立総会

函館市の近況

① 市町村合併

平成十六年十二月一日に「平成の大合併」道内第一号となる戸井町、恵山町、樞法華村、南茅部町との市町村合併が行われ、新函館市がスタートしました。

② 国際水産・海洋都市構想

構想推進の中核となる旧函館ドック跡地に計画中の「国際水産・海洋総合研究センター」の実現に向け、国の関係省庁や独立行政法人・水産総合研究センター、北海道、北海道大学、函館商工会議所、函館国際水産・海洋都市構想推進協議会、函館市で構成する「特定地域プロジェクトチーム」が平成十六年十月一日に発足しました。

今後は、施設整備を進めることの合意形成や各施設の機能、規模、整備手法、スケジュールなどを協議することになっていきます。

また、市では市民・観光客が海を知り海に親しむ施策の一つとして市内各所に函館周辺の海や生物の魅力を映像で紹介する「まちかどデジタル水族館」の開設を計画していますが、その第一号として十一月十九日に市役所一階市民ホールに縦七十六センチ、横百三十五センチの大型画面が設置されました。

今後は、空港や駅、デパートなどへの設置を計画しているほか、海洋科学館のような水族館を緑の島に建設する構想の

検討が進められています。

③ (仮称) ひかりの屋台

函館駅前・大門地区の活性化に向けて、松風町七で二十七店舗・道内最大規模の屋台村のオープンを平成十七年十一月に予定しています。

敷地は八百九平方メートル、屋台はカウンタ形式とオープンテラスを併設した二タイプ、一店の面積は約十一から二十六平方メートルで「ひかりのまち函館」を意識し、照明などを特徴的なものにするにしています。

八月から十月までの出店募集に洋風居酒屋や韓国料理、焼き鳥、ラーメン、カクテルバーなど、三十件の応募があり今後、出店者を決定し、予定通り開業することになっています。

④ 中央図書館の建設

新しい図書館の建設が五稜郭の「渡島支庁跡地」で進められています。

約一万七平方メートルの敷地に地下一階、地上二階建て、総床面積約七千五百平方メートル、駐車台数百五十台、駐輪台数百五十二台、収蔵冊数六十三万冊、閲覧座席数約五百席の規模となっています。

建物本体は平成十七年七月に完成、その後、駐車場整備・植栽工事を行い、同年十二月のオープンを予定しています。

⑤ 五稜郭タワーの建替え

函館観光のシンボルの一つ五稜郭タワ

ーが隣接する飲食店「稜雲亭」の場所に建設されることとなり、同店の解体作業を経て十一月から建設工事が進められています。

新タワーの高さは、現在の六十メートルから九十八メートル、展望台部分は現在の四十五メートルから倍の約九十メートルとなり、史跡五稜郭が今まで以上に展望できるものとして平成十八年四月一日のオープンを予定しています。

(函館市東京事務所提供)

☆二上達也さんの出版記念会

二上達也さんは将棋連盟の会長を退任されたのを機会に、現役中の貴重な思い出や印象に残る勝負の数々を一冊の本に纏め「棋士」と名付けて出版し好評で迎えられる。そこで二上さんと親しい道南会や、函中同期会、青柳会の有志で出版記念会を開いた。

十一月二十九日(月)午後六時から表参道のダイヤモンドパレスで開催、九十五人が出席して祝福し、二上さんは幼少の頃の函館市の思い出や戦後の将棋界のエピソードなどを披露し、参会者に感銘を与えた。



「緑の島」と函館港

『会員プロフィール』

平成十五年の新年号の会報に「会員プロフィール」を掲載、十二名の会員からご自分の生い立ち、経歴、お仕事、趣味やご家族のことなどを紹介して戴き、会員相互の理解と親善に大変役立つております。

平成十五年夏季号には五十二名の会員から、更に十六年の新年号には二十九名の会員から、十六年の夏季号には四十三名の会員から、今回は二十九名の会員から原稿を寄せて頂き、通算で一六五名の会員をご紹介しましたが、今後とも一人でも多くの会員に登場して戴きたく宜しく願っています。(原稿は二百字程度で、内容はご自由にお書きください)

相原清美 豊川町の魚市場の間屋長町

能部品供給会社に、ここで三年間の大阪での単身赴任を経験。定年と同時に日産アルテアに転職して日本全国を廻る。

平成十六年三月に退職、孫の子守と趣味の写真を生かせればと思っております。

金谷稔 昭和九年船見町に生れ、弥生

小から最後の旧制函中生となり、中部高校卒。高校時代はいつぱしの野球少年だったのに「都の西北」で完全に映画少年と化し、以後映像の世界をまっしぐらテレビ映画全盛の頃、民放で数々の高視聴率番組を手掛けたが、それも今は懐かしい昔話。現在は年金生活にどっぷり浸かり、食べ歩きや海外旅行で余生を楽しむ。(そうであらいたい！と実は願う毎日・・・ああ)

加藤信利 昭和十二年、八雲町生れ。

父の転勤で小学校五年の時に今金町に移り、中学から函工機械科へ、三年間の下宿生活と吹奏楽部を体験。与野市の埼玉日産自動車に就職。途中営業職に変わり、

(この間に函工同窓会関東支部設立に携わる)車の営業に疲れ果て退職。車の機

を経て函館市役所に就職。昭和五十四年史上最高得点で市議会議員に当選、平成五年に衆議院議員に当選(旧北海道三区)、平成十五年に同四選(北海道八区、民主党)。国会では主に厚生労働委員会に所属し、民主党の年金一元化法案策定に参画、現在は国土交通委員会理事で新幹線の実現に全力。好きな食べ物はカレーライス、そば、酒。血液型O型。

川小ヒナ子 一九四五年森町尾白内町

に生まれる。尾白内小中学校卒業、函館商業高校を往復四時間の汽車通学(蒸気機関車で今は懐かしく思います)。卒業後北海道銀行函館支店に六年、その後東京で四十六歳まで勤め「そろそろ草臥れたな」と思っていた頃です、十八歳年上でシアトル生まれ育ちの夫と結婚、現在に至っております。スポーツが常に流れている家でときどきトンチンカンな話題も有りの毎日を送っております。

甘露寺 愛 昭和十三年函館市栄町に

未熟児として生まれ、東川小、遺愛女子中高校を卒業。第一生命函館支社に三年勤め上京。ドレメ卒業後、宣伝会社貿易会社と青春を謳歌しオールドミスを続け都会の騒音に嫌気がさしたところで見合話があり結婚。四十歳で一人娘が授かり二月に二人目の孫の誕生を心待ちにしております。想えば哺育器もなく、水とお

湯に交互に入れられて生き返って六十五歳の今日まで此の世に役目があるらしく生かされています。有難いことです。

工藤正昭 昭和三十二年函館に生れ、

小学校五年に日の出町に移り、高盛小、光成中、有斗高、函大に進み五十五年卒業。山浦染革(株)入社、二十五年の歳月を経て、主に靴用の皮革を製造中。家族は妻と息子二人。趣味は家族一同そろってヤクルトスワローズの大ファン。現在、

新谷和子 私は爾志那熊石町で生れ、

熊石町の雲石小学校卒業、熊石中学校に進んだが家庭の事情で東京世田谷の上野毛中学に転入、さらに二年から奥尻中学に移り、卒業後奥尻農協へ勤め札幌に行き、三十五年に上京。そのあと家族全員が漁業をやめて引き上げて来て、上野毛、

杉山智康 昭和十年札幌市生れ。道庁

勤務の父が渡島支庁へ転じた四歳の時に函館へ。柏野小、大野小・中、函館工業

湯に交互に入れられて生き返って六十五歳の今日まで此の世に役目があるらしく生かされています。有難いことです。

小学校五年に日の出町に移り、高盛小、光成中、有斗高、函大に進み五十五年卒業。山浦染革(株)入社、二十五年の歳月を経て、主に靴用の皮革を製造中。家族は妻と息子二人。趣味は家族一同そろってヤクルトスワローズの大ファン。現在、

勤務の父が渡島支庁へ転じた四歳の時に函館へ。柏野小、大野小・中、函館工業

へ。大学は東京に進学、卒業して教育出版の学研本社で編集者生活を送り定年を迎えた。現在横浜市内の私立幼稚園の園長先生を委嘱され若い先生方と頑張っている。趣味は囲碁とゴルフと旅行。子供二人は独立し家内と二人で横浜市内に暮らす。孫が遊びに来る日を楽しみに待つ日々を送っています。

神れい子 昭和七年生れ、中学卒業までは概ね静狩生活。昭和二十五年より十年ほど故郷に戻っていたこともありすが、横浜の親戚や東京に住んで今に至っております。営業していた小料理店も「れん」をおろし、今はハイキング、気功を楽しみ、週一度りハビリセンターの手伝いもしております。

相馬 滋 一九三六年大野町の農家に生れ育つ。上磯小・中学校、函館西高を経て進学上京。総合商社に就職、国内外の転勤が多かったが社内の同好会で、子供の頃に習い覚えたスケートでアイスホッケーが楽しめるなど、充実した三十八年間でした。道南会は明るく楽しい会です。すから出来るだけ多く参加しようと考えていますので宜しく願っています。趣味、海釣り・ビーチコーミング。地元のNPO（自然保護）に所属して、週末はボランティアに出掛けています。

高橋祐司 昭和七年函館生れ、終戦の年に弥生小卒業、函館工業高校を二十七年に卒業上京。三十一年大学卒業、通信機メーカーに就職、以後、函館へ帰り「自営」。再上京、再就職。学生時代から絵を描き日曜画家として油彩画を発表（主に蒼騎会へ三十年）。平成四年自動車メーカーを定年退職、以後画業に専念。平成六年保谷美術協会（現西東京美術会）を結成、市民絵画サークルの講師を務め乍ら主に風景画を描く。写生旅行多く、特に函館に寄せる想いは強い。十四年、西東京市より我孫子市へ転居。

竹中裕行 一九四〇年蓬萊町生まれ、青柳小、朝日中、西高（八回生）憧れの東京へ。大学遊学後商社系ソフト会社に就職、爾来三十数年科学技術系のソフト開発、解析業務一筋。九十六年、現場の仕事が続けたく、小さな会社を設立、生涯現役を夢見る。二十数年毎夏帰函し飲屋街やゴルフ場を彷徨っています。「老驥伏櫪、志在千里、烈士暮年、壯心不已」

「老いた騎馬が厩に繋がれているのは、千里を走らなうがため。烈士（曹操）年をとつたが、壮年の心は抑えがたい」好きなた詩です。

田村治雄 昭和五年函館市帆影衛生生れ、幸小、弥生、函館工高を経て濁川中学校の代用教員、神奈川県警を退職して現在

町の自治会文化部役員として、鎌倉など地元の歴史散歩、各種音楽の生演奏、講演会などを実施しています。趣味は音楽鑑賞、カラオケ、ハイキング、碁、将棋など下手の横好きでやっております。七十歳を超えて、これからの人生を思いやりをもつた生活をと考えておりますが、これがなかなか難しいものですね。

豊田利雄 一九三〇年生れ、東京渋谷出身。明治初頭、祖父安次郎は兄弟で鶴野村で開拓に携わった由。叔母ヤスは大正中期に湖畔で酪農を営む池田園に嫁ぐ。父武安はその乳製品を東京で販売、終戦を迎える。現在七飯には従姉の太田弥生がいる。五年程前から、ゆかりの者として「七飯会」の末席を汚しており、また定年を迎えた従妹夫婦は鹿部に新居を構え余生を過ごすとか。とにかく、「道南会」のお仲間に加えて頂き感謝しています。

中村 崇 昭和十七年樺太内幌生れ、二男三女の末っ子、両親は共に教員、十二年八月最後の引上げ船で函館に上陸七飯村鶴野小に奉職。数年後七飯村本町に転居、七重小、七飯中、中部高から芝浦工大ハンドボール部入学。東京で就職大阪転勤、四十八年脱サラ、札幌に会社設立。平成五年東京に同業別法人設立、

単身上京、函中仲間に誘われて道南会に入会。趣味は仕事と自称するが、出来な

い遊びは無い。息子がなく後継者育成中。

原 ヒエ子（旧姓江渡）一九三六年昭和天皇が函館に行幸された十月十日に生れた事からお召艦「比叡」に因み名付けられました。遺愛幼稚園、青柳小学校から白百合学園中・高を卒業後、札幌で商社に五年勤め、三十五年結婚して上京。三十八年長女出産、翌年柏市に移り長男と次女を出産。子供達は独立し孫が四人

おります。十年前ヒューストンの長女親子を訪ねコロラドロッキ公園の雄大さに感動。その後次女夫妻の滞在するカリフォルニアで「ヨセミテ公園」「グランドキャニオン」などを訪ね、北米の国立公園巡りにはまっております。

原田美恵子 一九二五年八人兄弟の末っ子に生れる。幸小、庁立高女を卒業。戦時中勝利を信じて仕上工として軍需工場で懸命に働く。二十二年に結婚二女を授かり、専業主婦二十年、地方公務員二十年を経て現在に至る。スポーツマンの夫とテニス、ウォーキング、海外旅行を楽しんでいます。三年後に迎える結婚六十周年（ダイヤモンド婚）を目指して少しでも頑張っています。

福津達男 大谷幼稚園で隣の女の子に歌が下手と言われ三日で退園。青柳小学校も幼稚園の延長と思いい登校拒否、お陰

で養護学級の男女組に入り楽しい六年間を過ごす。庁立函館中学入学、終戦後道立函館高等学校となる。東京に流れた童年に創ったのが創童社。右翼が総会屋と間違われるが、怪しい会社ではなく建築一筋四十二年。家内が逝って二十二年も

主夫業をやつて食菜の奥深い世界に惹かれ挑戦している。温泉旅行で地酒と料理を味わうのが一番、B型、みずがめ座。

藤枝良造 昭和六年当時の春日町（現青柳町）に生れ、青柳小学校は直ぐに傍だった。全国を飛び廻れたらと函館工高の土木科を選ぶ。以後願いは半分叶って日本ヒューム（株）、同系の日本上下水道設計（株）の各支店を転勤。定年を延長して七十歳で退職、夫婦二人市川市に居を構えている。子供二人は独立。今後はやり残したJR線、私鉄線「乗りつぶし」と、安全ドライブによる鄙びた観光地巡りに妻を引っ張って行くのが課題である。

侯野健三 一九三七年亀田村の赤川の市立康生病院の牛舎で生れ、五人兄妹の末子に育ち、付属小中学校を出て私は東高へ。大学を出て米国ユニオンカーバイド社、デュボン社、三菱商事、三井物産、米国イマトロンのメデイカル関係の仕事に従事した。超高速電子ビームCTを通じて「突然死の予防」をライフワークとして、現在メデイカルコンサルタントで活躍中。東京付属小中同窓会の代表幹事として、また観光大使として、歴史ある、自然の美しい函館への恩返しとしてボランティア活動をしている。

松浦和彌 一九三六年森町生れ。野球が好きで函工に入学、二十九年北海道代表で国体に出場、千葉商高に破れる。翌年ライオン油脂（株）に入社、大阪（堺）に六年間、五十四年本社勤務となり定年を迎える。平成九年知人の会社の非常勤で現在に至る。旅行好きの看護師の妻と日程をやり繰りして楽しんでる。長男教師、次男マスコミ、それぞれ世帯を持ち元氣。孫と会うのが楽しい。道南会の皆さんと長く過ごせるよう祈念します。

三浦幸恵 一九四五年生れ。山背泊町（現入舟町）で育ち常盤小、船見中、女子商業高校と二十歳まで函館で過ごし、その後上京、四年程会社に勤めて結婚。子供は娘一人、その娘も昨年結婚してベルギーで生活しています。今は現役で仕事をしている主人と二人暮らし。年令と共に、これからの人生を悔いなく過ごしたいと思っております。老眼に鞭打ち趣味のサンドブラストに励んでおります。

水戸馨子 昭和十七年台町（現船見町）に生れ、兄弟や友達と外人墓地などで遊んでいた頃を思い出します。常盤小、船見中、西高へ。間もなく結婚して神戸に移り、主人の仕事で色々な所に行き「光陰矢の如し」を痛感しています。今は自分の大切な空間を楽しみたい、俳句を捻ったり、ハーブを爪弾いてみたり、自然の懐に抱かれ、故郷に想いを馳せハーモニカを吹いている時が、一番倅せのような感じのする今日此の頃です。

宮崎紀夫 昭和十五年上磯町に生れ、上磯小・中、函館商高に進み、その後、大蔵省税務講習所（現税務大学校）に入校。卒業後、税務署勤務（北海道五署・東京九署、東京国税局、国税不服審判所・税務大学校を経て、平成十一年官歴終了。この間の転勤回数二十回。現在東京中央区にて税理士を営む。傍らTKC税務研究所の研究員として勤務。妻と娘三人で浦安市に居住。趣味は読書、映画鑑賞、囲碁、東京上磯会副会長。

吉田恭子（旧姓石橋）一九四二年、千代ヶ岱に生れ育つ、大谷幼稚園、千代ヶ岱小、大谷中、高校卒業。中学高校と軟式テニスで全道大会へ三度出場、その後上京して短大へ、保健所に勤めて主人と出会い結婚。専業主婦一筋二男一女、孫二人・嫁一人。上京して四十余年、今は毎週コーラスとオペラ合唱の練習や友達にいけ花を教えたり、人との和を大切に思っています。特に同郷の方達とお会い

若林英毅（ひでたか）一九四二年東京五反田で生れ、父の都合で京城へ、昭和十九年戦況が厳しくなり父の実家函館小舟町へ帰国。幸小、船見中、西高から関東の大学へ進学。香料会社に就職し四十年間「香り」一筋で、今も現役で奮闘中。函館には育つた家、先祖のお墓があり、年三〜四回帰省して函館・大沼・江差など道南を散策し、美味しいイカ・魚を食べ旧友と親交を深めています。現在市原市に妻と息子と住み、趣味のゴルフを楽しんでいます。

吉田修 一九四四年青柳町に生れ、小学校は親の転勤で道内を転校。中学は江差、高校は函館に通学。大学進学と共に函館を離れ、不動産会社で建築設計監理業務にたずさわり、今春退職。現在は建築関係業務とゴルフ、軽登山、下手なりに書道を楽しんでいます。故郷を通し皆様との懇親を楽しみにしております。

若林英毅（ひでたか）一九四二年東京五反田で生れ、父の都合で京城へ、昭和十九年戦況が厳しくなり父の実家函館小舟町へ帰国。幸小、船見中、西高から関東の大学へ進学。香料会社に就職し四十年間「香り」一筋で、今も現役で奮闘中。函館には育つた家、先祖のお墓があり、年三〜四回帰省して函館・大沼・江差など道南を散策し、美味しいイカ・魚を食べ旧友と親交を深めています。現在市原市に妻と息子と住み、趣味のゴルフを楽しんでいます。

吉田修 一九四四年青柳町に生れ、小学校は親の転勤で道内を転校。中学は江差、高校は函館に通学。大学進学と共に函館を離れ、不動産会社で建築設計監理業務にたずさわり、今春退職。現在は建築関係業務とゴルフ、軽登山、下手なりに書道を楽しんでいます。故郷を通し皆様との懇親を楽しみにしております。

福引き大当たり顛末記

相馬正樹

籤なんか当たらないものと決めてかか
つてはいるものの、ひよっとして当たっ
たらと思わないわけでもない。当たらな
いからと言って、無視できないのが籤の
魅力なのだ。

人間は元来ギャンブル好きなのだから、
ふるさと会には抽選会というものは、ど
つちかと言えはあったほうがいいものだ。
それは、なぜか抽選会が終わるまでは帰
る人が一人もいないことから見ても明ら
かである。

昨年一月二十四日、道南会の新年総会
は内幸町のプレスセンターで開催され、
百十数名の参加者で盛会であった。宴が
終わりに近づいて待望の抽選会が始まっ
た。籤運のわるい私は、同じテーブルの
人達が日本酒やイカメシといろんな景品
をもらってくるのを、羨やましそうに横
目で見ているだけだ。あまりお呼びがか
からないとイライラしてくるものである。

「ところで当たりの番号というのほど
レなの」

と聞いて見たら、出席者名簿に載ってい
る番号だと言う。そつと名簿を見ると二
〇番であることを確認し、当たりのくる
のを待ちながら、さりげなく雑談が続い
た。

「二十番！」

それとばかりに席を蹴つて景品を受け

取りに走った。彼女は私の名簿の番号を
見るなり、

「この番号ではないの。後についてい
る方ですよ」

と言われて良く見たら後についている番
号は「五四」となっている。あわてて恥
かしい思いをしてしまった。

「景品は後になるほど高価な物になる
から楽しみですね」などと負け惜しみを
言つてまた雑談をつづけた。

話は変わつて大分昔のことになるが、
函館中部高校同窓会の東京支部総会での
ことである。終りの頃に抽選会があつて、
特賞は見事な新巻鮭であつた。当時の鮭
は今と違つて庶民の口には入らない高価
な魚であつた。みんなが景品を抱えて席
に帰る姿を見ているだけの経験を繰り返
してきた私の恨みが遂に爆発して、壇上
にかけ上がつて、抽選券のはいつた箱を
取り上げて激しくゆさぶつた。

「これでよろしくお願いします」

と、抽選者に深々と頭を下げをお願いし
た。

そうしたらどうでしょう、効果観面とい
うか次に引き当てたのが、なんと私の当
たり番号であつた。そして、私はこのお
まじないで鮭一匹を頂いて悠々と席に凱
旋した。これはまことに同窓会のまれな
珍事で、新しい特賞の当たるオマジナイ

になった。

そしたら案の定、不良同期生が寄つて
きて、

「今日の二次会は相馬君の鮭を形にし
て飲もうよ」

という話がまとまつてしまった。早速
会場近くの居酒屋に陣取つて交渉を始め
たが、どこの店も取り合つてくれない。

鮭をおろせる人がいないからでしょう。
お陰で私は重い生鮭を担いでやつと家ま
でたどり着いたという思い出がある。こ
んな話を同席の人達にしていたら、

「以上で一応の抽選は終わりました。
次は本日のメインイベント、函館往復の
航空券、ホテル一泊付きペアーでのご招
待の抽選です」

と言う声が聞こえたので、よし、ここで
例の函中の「ゆさぶり作戦」を実行しよ
うと思ひ、抽選箱に向かつて駆け寄つた
が間にあわぬ。抽選者に向かつて大声
で叫んだ。

「ちよつと待つて！五四番をお願いし
ますよ」
田沼会長が笑顔でつまみとつた抽選券
を島田さんに渡した。彼女がそれを開い
て、大きな声で叫んだ。

「五十四番！先生ですよ」

こんな偶然つて二度もおこるものだろ
うか、私は耳を疑つた。彼女の声が天女
の声のように聞こえたのも当然で、今話
していた通りの大当たりである。宿泊券

を頂いて小躍りしながら席にもどつた。

当選者に寄り添う人が現れるのも同じ
で、島本さんが、

「さあみんなでお祝いしよう」

と言うので、「できるだけたくさんの人を
集めよう」とご用とお急ぎでない方を手
当たり次第に誘つたが、生憎五人だけし
か網に掛からなかつた。幸いにも同期生
今井君も被害者の一人になった。ともあ
れ、木谷さんという新人会員が紛れ込ん
でいたために、話題はこのマドンナが中
心で、たつたコーヒー一杯で二時間あま
りの歓談を楽しみ、後ろ髪をひかれる思
いで宵闇せまる紅灯の巷新橋を後にした。

家について、改めて函館までの航空券
付き招待の大当たりの実感がわいてきた。
しかし、ペアーでの招待は女房のいない私
にはちよつと不都合である。さりとして用
事もないのに一人で函館を往復するもの
勿体ないから、これから誰か同伴にふさ
わしい美女を探さなければならぬこと
になる。しかし、そんな人は簡単には見
つかるものではない。新年早々中年の年
男で、大当たりまでは良かったが、かえ
つてまた大きな難問を抱え込む羽目にな
つてしまった。

平成十六年六月二十一日 早坂茂三氏は肺癌のため七十三歳で逝去された。惜しみてあまりある旅立ちであった。早坂氏と交誼の深かった「道南会」「白楊ヶ丘同窓会」「函中五十一期会」「東京東川会」の有志が呼び掛けて八月二十一日(土)午後四時から、



以前 早坂氏が事務所を置いた赤坂のビル、斜め向かいの「永楽倶楽部」で「早坂茂三氏を偲ぶ会」を開催した。参加者は九十余名であった。発起人代表の田沼道南会長と函中同期代表の柴田啓次氏の挨拶のあと、献杯をして生前のビデオを見ながら会食。別室には数々の写真と奥様から寄贈された洋服や靴、万年筆や文房具など、彼が愛用した身の回りの品々が飾られ、希望者に頒けられた。本会場では故人を偲ぶスピーチが続き、六時すぎ冥福を祈りつつ散会した。

茂三さん安らかに

福津達男

先日の早坂茂三氏を偲ぶ会で思ひ出話をしたが中途半端で終わってしまった。田沼会長が折角の貴重な話だから道南会報に載せたらと勧めて呉れた。お言葉に甘え、思ひ出が鮮烈なうちに書き留めておくことにした。

九月台風の最中、函館にお参りに行った。茂三さんの墓は高龍寺から別院の地藏寺(院)に移り両親と共に眠っていた。昔 元町遊郭の引取人のない女郎衆の霊を祀るために建てられたという地藏院は

港がかすかに見える小高い丘の上にあった。小雨が降り、棚引く線香の煙の中に数十年前の出会いが鮮明に蘇った。

◆早坂さんの所に草鞋を脱ぐ

その時 自分は人生の岐路に立っていた、北秋田の田舎に製粉工場をつくって札幌に貨車で直送したが、実際の中身は米そのものだった。投書があり間もなく全て没収されてしまった。むなししい気持ちが続き進む道が判らなくなっていた。

闇屋の前は代用教員をしていた。当時は文部省も日教組も現場の教師も混沌としていた。そんな中で二科の会長北川民次がメキシコで児童美術学校を作り成功

した。絵を通して人間形成をする教育である。自分もその道に進もうと思ひ美校受験を目指す事にした。しかし何せ友達の代返に助けられてやっと高校を卒業したものの、欠席多く採点不可能と書かれた通知箋には殆ど点数がなかった。中部高校で教師をしていた私の兄は、どこか大学を受けても無理だ、だが一度は挑戦してみよう、頼りになるのは友達、早坂しか知らないという。四谷四丁目大木戸郵便局長の横堀さんの所に下宿していた早坂さんは、兄から話は聞いた君の受験は難いことであった。國田佑作さんは芸大を終えてコマ劇場で舞台美術を担当しており、今更学科をやっても始まらないだろう、デッサン一本で勝負するしかない

と一週間デッサンの特訓をしてくれた。何かの間違いか武蔵美に入った、そしてどうやら美校を終え、名古屋の瀬戸に北川民次先生を訪ねていった。しかし先生はメキシコに行つて不在、児童美術学園は閉鎖していた。日本では進学と就職が先行してついでこれなかったのだ。

◆角栄の秘書となった早坂さん

悄然として名古屋から東京に舞い戻つた時、早坂さんは田中角栄の十三番目の秘書になっていた。砂防会館の田中事務所を訪ね、受付け近くの席で早坂さんと話していたら、角さんが二、三人引き連れて出てきた。二人共慌てて立ち上つた

ら「おツ早坂君の友達か、鰻の上をとつて」といつて慌ただしく出ていった。早坂さんは鰻より豚カツなら大盛り二つ食べられるぞと言つたので、すぐそれに乗つた。大盛り一つでいいと言つたらコーヒ一迄をとつてくれた。何時も腹を減らしていたので、その味は格別であった。

◆葬儀委員長を引き受けて呉れた

思えばいろんな事を頼んだものである。建築の仕事を始めましたが、私を含め社員や職人が度々交通違反をし、秦野章の豊島秘書さんに面倒をかけ、税務の事は鳩山威一郎の大番頭の大伴忠さんにお世話になった。すべて早坂さんの口利きであった。

その頃うかつにも家内の具合が悪いのが気が付かなかった。友人の三菱重工の大蔵山病院の佐藤先生に診てもらつたが胃癌が大分進行していて半年位と言われた。近くの東京医大に行つたら満員で入院まで二ヶ月もかかるという。慌てて早

坂さんに電話したらすぐに返事がきた。大丈夫だ、部屋は空いている入院手続きをするように。厚生大臣は田中派の林義郎であった。一年半の闘病生活であったが葬儀委員長を引受けてくれた。それから二十年、幼かった娘も嫁に行くようになり、三年前、結婚式には早坂御夫妻が出席し心温まるスピーチをしてくれた。

◆ 逃がした魚は大きかった

本当にいろんな事の相談に乗ってくれた。中には怪しげな案件もあったが、そんな中で、いま迄持ってきた話の中で一番まともだと本人が乗気になった一件があった。昭和五十九年八月厚生省生活衛生局長の通達で、水道管の防錆剤にリン酸塩または珪酸塩を使用して良しと通達が出た。日本農薬、オルガノ、栗田工業、荏原インフィルコが一斉に動きだした。荏原の建物は何十万棟もあるが古く殆ど赤水が発生している。一万棟押さえたから一千万円の利益で毎日一億円入る。ポンプ注入装置とメンテの仕事も併せると八百億円になる。荏原は皇族の流れだから潰れない、荏原の全国販売の権利を取れ！契約には必ず弁護士を入れるように金が必要なら遠慮なく言ってくれ」と激がとんだ。当時厚生省事務次官は吉村仁。長く君臨して殿様同様な存在。いま迄直接お目にかかった事はなかった。荏原の連中は皆震え上がっていた。契約はすぐ結ばれた。早速早坂さんに報告に行っ

た。随分早く出来たな後は俺に任せろ、これで達ちゃんも（家内が亡くなった時からこう呼ぶようになった）いろいろあったが、これで男になれる、順ちゃん（亡妻）も草葉の陰で喜んでる事だろうと言って新富町の料亭で祝杯をあげた。そして二日後、田中角栄が倒れた。運、不運は本当に紙一重だ、スパース販売という会社だけが残った。

◆ 最後まで子離れできなかった

朝早く電話があり「悪いけど一寸きてくれないか、僕と貞子とどっちが正しいか聞いてくれ」という。またかと思ったがこちらに他に魂胆があるので行く事にする。話は主に一人息子の茂樹君の事である。子離れ出来ない早坂さんと、親離れさせようとする奥さんの意見が根本的に違うのだから噛み合う筈がない。最初は静に話しているのだが、だんだんエスカレーターし、日頃のストレスを爆発させて捲きたてる奥さんに、早坂さんはたじたじとなって終わる。一時間近くかかる事もあった。早坂さんの十戦十敗だった。終わると山程送られてきた贈物を持っていつてくれという。中には魚沼コシヒカリ三十キロ入りの袋から、鄧小平から送られてきた大きな瓶に入った中国酒もあった。茂樹君が中学一年で、ラサールと同様に全寮制の金沢英明館に行く事になった時の早坂さんの狼狽ぶりは大変なものであった。四十過ぎて出来た一人息子

を手中の珠として溺愛した。茂樹君がNHKに勤めるようになり、仕事柄遅くなる時もあるのだが帰宅するまで、必ず起きていた。皆がたくたくに疲れ、しまいには別居する事になる。最後まで子離れが出来なかった。

◆ 早坂さんは敵の多い人であった

早坂さんは国会議員に立候補するよう奨められた事もあったが、一度も耳を傾けなかった。回りには一年生議員になつたら、とつちめてやろうという人もいたようだ。政治家は仁義なき争いで、やぐざの世界より悪い、自分には合わないと言っていた。ジャーナリストに始まりジャーナリストで終わった。その文章は移り変わる歴史の中の間模様様が読者を一気に引きずり込む迫力があった。角栄物語から始まり、これから茂三の世界を作りつつあった、長編小説の構想もあったのに惜しい事であった。

◆ 達ちゃんのカレーが食べた

亡くなる一週間前、達ちゃんのカレーが食べた」と電話があった。四・五年前から華麗なる紳士淑女の集まりと名を付けてカレーを食べる会をやっている。話を聞いて食べにきた早坂さんは、たまげたもんだと目を丸くしてペロリと二杯も平らげた。五島軒や小池のカレーもあり、中村屋もあるのに、入院騒ぎのこんな時何でカレーといったのか、ジーンと来るものがあつた。いよいよ病院は何を食べ

ても良い、というようになったのかと思、目頭が熱くなった。早坂さんは健康な家であった。世界中、日本中廻っているような美味しい物を食べ続けてきたと思う。鰻、天麩羅の掻揚げ、焼鳥など比較的油っこい物が好きであり、毎朝コーヒ―牛乳を飲むのが日課であった。また小倉の餡パン、一夜干しのホッケ、ジャガイモが大好物。特にジャイガイモは斜里の一番だと塩煮を旨そうに食べている姿が目につく。

人生の節目節目に手を差し伸べて呉れた早坂さんに心から感謝し、改めてご冥福をお祈りいたします。そして出来ればじゃがいもを食べながら、もう一度偲ぶ会をやりたいと思う。

◆ 追憶

「明日の道南を拓く会」を立ち上げたが、未だに軌道に乗りきれないでいる。ふるさと会や同窓会の今後の事や合同事務所など話したら、早坂さんは君が死んだら誰かがやるんだから、苦労が多いだけだぞと言ったので、そんなことを言っているから、先輩は後輩に良い形を残してないんだと噛み付いた。するとわかつた、形が出来るまで必ず出席すると約束して、全ての集まりに万難を排して出席してくれた。

いま早坂さんは、故郷の山懐に抱かれ昔の榮華に想いを馳せながら、これからの函館の繁栄を願っていることだろう。

十六年度夏季懇親会

夏季懇親会は九月四日(土)午後一時から、ホテル「聚楽」で開催。ご来賓の桜井函館市商工観光部長をはじめ、一〇六名の参加者があつた。

会は福田裕子さんの司会で始まり、田沼会長から「本日はご来賓の桜井商工観光部長をはじめ、一〇〇名を超す多くの方々の参加があり、出席者に心から感謝する。今年、函館市ではペリー来航一五〇周年記念行事等が催されており、当会でもふるさとへの支援の思いを込めて函館への旅行会を七月末〜八月に企画したが、参加者が思いの他少なく残念であつた。また、永年当会にご協力、ご支援をいただいた顧問早坂茂三氏が、六月に逝去され誠に残念であつた。八月二十一日(土)中部高校同窓会、道南会が中心となつて「故人を偲ぶ会」が開催され、九十余名が参加して故人を偲んだ。当会では色々な行事を行っているが、今回ゴルフ会を行うこととしたので、多くの方々

の参加をお待ちしている。会報「道南」では会員のプロフィール紹介の掲載を行っています。新しい会員が増えており、好評でもあるのでこれからも続けて参りたい。皆様のご支援とご協力を賜りながら道南会の発展のために努力して参りたい」との挨拶があつた。

次に桜井商工観光部長より、函館市の様子について「今年、ペリー来航一五〇周年、開港一四五周年を記念して色々な行事を行っている。また、十二月一日の合併により人口三十万人強の新函館市が誕生する。新市は特に水産水揚げ高では全国で二〜三位の規模になる。今、市はテクノから水産都市構想を進めており、函館市は経済の停滞の中にある北海道の中にあつては、元気の良い方である。観

光面では、台湾からの観光客が増加しているが、道南会の皆様の力を借りて、尚一層の努力をして行きたい。」との報告と挨拶があつた。

続いて、能味顧問が道南会の発展と会員のご健康とご多幸を祈念して乾杯の発声をされた。

懇談に移り、四月に就任した阿部東京事務所長が道南会の皆様の窓口として努力して行きたいと挨拶。次に、岩船元商工観光部長(元東京事務所長)が久し振りに出席し、姪の川村紀子さんのリサイタルについてお願いに來た、と近況を交えて挨拶された。続いて、板垣副会長より新入会員の紹介が行われ、夫々自己紹介をし、挨拶をする。

懇親会の中締めは、三村常任幹事の一本締めで盛会の中散会した。なお、懇親会には函館市より昆布巻が、サツポロピールよりビールが寄贈された。

葉袋泰記

平成十六年度

夏季懇親会出席者

〔来賓〕

- * 函館市商工観光部長 桜井健治
- * 〃 観光課長 川崎真一
- * 元東京事務所長 岩船 寛
- * ピアニスト 川村紀子
- * サツポロピール(株)

〔参加者〕

- 朝倉敏夫、安達昌子、厚谷論、阿部正身、荒木道雄、池上謹之助、泉龍夫、伊関直美、板垣寿見子、市川一彦、上田航、小熊勝夫、小山光、加我光徳、加藤信利、金子公彦、川守田孝平、川守田礼子、菊池紀邦、歸山武志、小島幸子、小谷泰三、後藤亮吉、後藤智子、小林寅雄、小林嘉則、小森良彦、小山和彦、斎藤勝美、坂本保子、佐藤成子、澤株正始、澤株尚子、島田瑞子、四村浩一、菅愛子、菅原靖、杉田博子、須藤珠實、相馬滋、相馬正樹、染木志郎、染木トシ、高木晃一、竹中裕行、田代沙智子、谷藤由紀子、田沼修二、田村良人、田村房江、田村仁、田村公子、千葉純子、土橋道子、弦巻鋼男、鶴本支郎、寺田耕治、照井陽子、時田厚子、豊田利雄、鳥本玲子、長島康、中山泰諤、納代鉄也、成田きよえ、新山春一、西村有人、沼崎貞良、根来美和子、能味寿哉、原田美恵子、原ヒエ子、比嘉裕子、福島紀、福田裕子、福津達男、藤枝良造、二上達也、古井勝春、堀内洋子、本間作喜、本間和吉、松浦和彌、松永幹男、三浦幸恵、三国比左男、三橋淑子、葉袋泰、南川貞治、三村寿雄、宮本章次、山木和子、山下弘治、山田克明、山田隆、吉田孝、吉田恭子、若林郁雄、渡邊宏司。

* ビックホリデー(株)

山口恵市

営業推進部専任部長 手島孝雄



新入会員紹介

(一) 内は出身小学校

- 阿部喜久雄(襟) 豊東京事務所長
- 伊関 直美(綴法華) 菅原大作さんの紹介
- 四村 浩一(港)
- 田村 仁(中) 島田村良人さんの弟
- 田村 公子(八幡)
- 鶴本 支郎(付) 属松永幹雄さんの紹介
- 豊田 利雄(東) 京東京ふるさと七飯会
- 南川 貞治(付) 属川守田孝平さんの旧制中学の先輩
- 吉田 恭子(千代ヶ岱) 佐藤成子さんの妹
- 本間 和吉(函工小山さんの紹介)

◆東京函商同窓会

七月十一日(日)

品川プリンスホテル 一六〇名

◆東京幸小学校同窓会(本部合同開催)

九月二十三日(木)

函館ロイヤルホテル 七十四名

◆白楊ヶ丘同窓会東京支部総会

十月二十三日(土)

ダイヤモンドホール 一五〇名

◆東京弥生会

十月二十三日(土)

三越本店特別食堂 十三名

◆東京大谷学園同窓会

十月三十一日(日)

後楽園飯店 二〇名

◆東京青柳会

十一月二十六日(金)

ダイヤモンドホール 四十二名

◆函館工業関東支部同窓会

十一月二十八日(日)

芝弥生会館 一〇〇名

◇函館遺愛同窓会

十二月三日(金) 午前十時半

アイビーホール青学会館

◇関東青雲同窓会

二月五日(土)

未定

同窓会だより

◆東京常盤会

五月二十二日(土)

アスター 四〇名

◆函館白百合高校同窓会

五月三十日(日)

ホテルオークラ 九〇名

◆東京東川会

六月十九日(土)

キャッスル 六十九名

◆大森小学校同窓会

六月十九日(土)

キャッスル 五十三名

◆柏野会

六月十九日(土)

グラントパレス 八〇名

「ホテル聚楽」

(別紙)

★第一回道南会ゴルフ会

予て計画していたゴルフ会を、今回は田沼会長のホームコースでもあり、チャンピオンコースとして有名な習志野カントリーにて、絶好のゴルフ日和の中で行われた。難コースの中で新入会員、金柿陽子さん(柏野小出身)が並み居る男子強豪を抑え見事優勝。又、ベストグロス賞は小坂鉄雄さん(亀田小出身)が獲得された。参加者十二名。今後はゴルフ会を道南会の行事として定着化したいと考えているので、ゴルフ愛好の皆様の参加をお待ちしている。

ゴルフ会幹事 沼崎、三村

★関八州見晴台ハイキング

十一月二十八日(日) 参加者五名。

秋も深まった快晴の一日、奥武蔵の山を歩いた。西吾野から、黄色や赤に彩られた里を通り山道に入る、急な坂が続き汗をかきかき登った。高山不動尊の奥の院。関八州見晴台からの眺めは良く、富士山が頭を見せた。下りは黒山への道を取り、観光客で賑わう黒山三滝を見てバス停まで歩き、四時間のハイクを終えた。

★猿島散策

十月十四日(木) 午前十一時

生憎の空模様のため、朝になってから中止する事にしたが、有志十名が横須賀に集合、三笠棧橋から小さな渡船に乗り、曇りがちの空を仰ぎながら島に渡った。

猿島はかつて海軍の要塞として使われた島でその面影が残っていた。島をぐるりと一周して再び渡船で横須賀に戻った。



会報「道南」十七年新年号

発行 平成十六年十二月十五日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦四一九一

十三八〇三 川守田 氣付

印刷所 (株)ソーラン社

中央区日本橋小伝馬町十六一八